

ひとはく通信

ハーモニー

98

Sep. 2017

特集

収蔵資料展

ひょうごの針葉樹

急峻な山地で優占する針葉樹（篠山市、小金ヶ嶽）
岩場や尾根にアカマツ、ネズ、ツガ、ヒノキ、モミ、稜線に近い谷頭部にスギが生育している。他に目立つのは落葉広葉樹（冬季で落葉している）で、常緑広葉樹は少ない。

コハクオナジマイマイ(写真1)は殻径 15mm ほどのカタツムリです。薄い殻からは内蔵が透けて見えて、鮮黄色が目立ちます。淡路出身の黒田徳米・篠山出身の波部忠重両先生が 1953 年に九州産の新種として発表しました。

日本の固有種で、九州から中国地方西部は自然分布とされています。1992年に千葉県館山市で、1998年に兵庫県浜坂町で、その後国内各地で見つかりました。これらは人為的な移動による「国内外来種」として扱われています(図1)。

茨城県では小松菜を食害した報告はありますが、兵庫県内でよく見つかるのは農地や川岸のカラムシやクズなどの群落で、好んで食べているようです(写真2)。秋には卵を産んで、成体は死んでしまいます。

西宮市・三田市などでも発見され、兵庫県内でも分布が拡大していますが、現状は不明です。透明感のある黄色に気をつければわかりやすいカタツムリです。見かけたらご一報下さい。

鈴木武(自然・環境再生研究部)



写真1 コハクオナジマイマイ
(右上) 殻に茶色の色帯のある個体が希にいる。



写真2 (右) カラムシを食べるコハクオナジマイマイ
(左) 川岸のカラムシ群落



写真3 コハクオナジマイマイと間違えやすいカタツムリ
(左) オナジマイマイ (右) ウスカワマイマイ
オナジマイマイの殻は厚く、鮮やかな黄色になるはない。
ウスカワマイマイの殻は黒いまだら模様に見える。

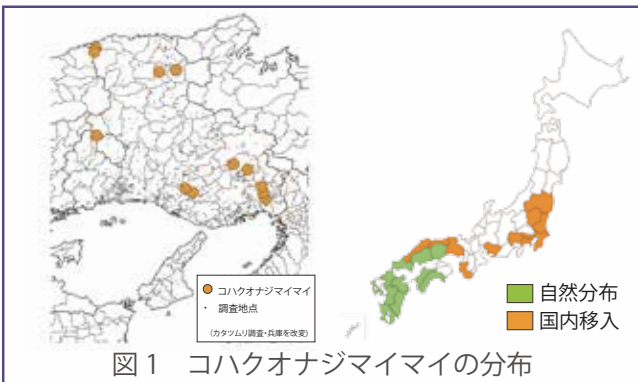


図1 コハクオナジマイマイの分布

トピックス

新入館員 自己紹介



自然・環境評価研究部
地球科学研究グループ
久保田 克博

6月より恐竜化石総合ディレクターとして着任しました。恐竜化石関係のボランティアの管理や育成プログラムの企画開発をはじめ、展示や広報などの仕事をしています。ひとはく、そして地域のお役に立てるように活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



フロアスタッフ
藤原、田畑

ひとはくは、扉を開けて皆さまのご来館を待っています！
私は、皆さまが笑顔で館内を歩けるようにサポートします。(田畑)
色んなことをするのが大好き！
ぜひ、あなたの発見を教えてください。皆さまのご来館をお待ちしております。(藤原)